

環境日本一を目指す仙台市民集会Ⅳ

「水循環～川は地球の血管だ」をテーマに6月4日開催

6月4日の市民集会で「広瀬川水循環の課題解決へ向けた活動とは」の講師を担当された日下均さんは、「アユ釣りがしたい」一心で仙台で起業したくらい広瀬川への思い入れが深い方です。長年、広瀬川の清流を守る活動をされています。以下、お話をまとめてみました。

「河水千年の夢」という歌にも謳われることの多い広瀬川だが、伊達政宗の仙台開府にその出発点があるという。日本の河川百選（環境省）にもあり、広瀬川の清流を守る条例（仙台市）は、1974年に日本で先駆的に制定されています。広瀬川はほとんどが仙台市域を流れ、支流を含めると面積は仙台市の半分になるという。これだけ市民に近い川なのだが、問題が無いとは言えないらしい。

第1の問題は「市と県のバラバラ管理の弊害」。広瀬川水系は大倉ダムで利用され、水道水や農業用水などに使用される。ところが「農業用水の取りすぎ？」という問題が浮上。「広瀬川で魚大量死～農業用水取りすぎ」（2002年河北）、「サクラマス大量死～水不足で酸欠か」（2018年河北）。日下さんによると、大量死は毎年発生すると言う。市と県の管理権、さらに縦割り行政が、大倉ダムの放水も含めて広瀬川の一元管理を難しくしてきたと指摘。市民の声も反映されにくくしているとも。一元管理をすすめることで治水・利水・環境のそれぞれのバランスの取れた河川管理が実現できるとのお話。政令指定都市の仙台市は広瀬川の管理権限移譲が可能であり、当然検討すべきものです。



広瀬川をもっと市民が遊び学べる場に

日下さんたちは川の学習会や清掃、芋煮会やアユつかみ、サケつかみ、灯籠流し等々を実行してきました。川を知り自然を体験し水の循環を理解する活動は素晴らしいと思います。大切なのは行政頼りではなく、同時に市民が率先実行することだと、まとめのお話をされた徳田さんの指摘は説得力がありました。「ワークショップ」では、「仙台市による広瀬川一元管理。学校でも川の教育を取り入れる。河川敷や川沿いの歩道やサイクルロードを整備し身近なものにする。融雪剤の水質への影響。下水の流れ込み問題」その他の提起がありました。 報告＝阿部文明

きらきら発電提案で井土浜エコタウン事業・サン・アイス広場検討協議会設立

5月20日きらきら発電は、井土町内会長庄子喜代志氏・農事組合法人井土生産組合大友新氏の2者と協議し、「井土浜にサン・アイス広場を」検討協議会を結成し、後日若林区まちづくり推進部の参加も得、6月2日宮城県環境部に対し、「エコタウン形成促進事業費補助金」の交付申請をしました。

初年度は「サン・アイス構想」についての学習会の開催や協議会への参加者を募り広めることが課題となります。

きらきら発電市民共同発電所ニュース

2023年7月号 第103号

〒981-3215 仙台市泉区北中山3丁目 17-12

電話070(2010)3777

HP kirakirahatuden.com/

hirohata3888@outlook.jp

古川くりの木保育園で自然エネ学習会

昨年株式会社エコスタイルの協力で自家消費型太陽光発電を設置した古川くりの木保育園で、みやぎ地域市民電力連絡会が6月17日(土)くりの木保育園に通う児童と親御さん対象に「発電の仕組み」についての学習会を開催しました。園児9名、卒園児2名、両親12名、職員3名の計26名が参加。連絡会浦井事務局長より「古川くりの木保育園では消費電力の8.5%を太陽光でまかない、くりの木4百本分の二酸化炭素排出を抑えている計算になります」と紹介。

学習会ではNPOきらきら発電の水戸部理事長が講師となり、「発電の原理・仕組み」と「人力発電と太陽光発電の違い」を説明。「人力足踏み発電では50w発電するのがやっとで、疲れるし長続きしない」と解説。その後園児に人力発電(手回しや足踏み)で扇風機やイルミネーション・LEDライト・こぐまのドンピーなどを動かしてもらいました。きらきら発電からは、理事長のほか、太齋・伊藤・広幡の3名が参加しました。



6月1日より東北電力料金値上げ 深夜電力は19%↑

エコキュートは昼に湯を沸かすと経済的、フリータイプに切り替えも

東北電力は6月1日より電力料金を値上げしました。「よりそうタイプ」は5.73%、「時間帯別電灯A」は15.77%、「深夜電力B」は19%の値上げです。少しでも電気代を減らすための対策を考えることが必要です。一番いいのが太陽光発電を屋根に載せること。1kw太陽光パネルで30万円ほどの費用がかかりますが、1年間1,000kwh発電しますから、小売り電力単価を1kwh50円とすれば6年間で元が取れることになります。次に大切なことは消費電力の節約。冷蔵庫を節電型に変えることや、照明器具をLEDに変えること。そしてなにより大事なのがエコキュート対策。エコキュートはこれまでは夜間(早朝)に沸かすタイプばかりでしたが、最近は沸かす時間をフリーに設定できるようになっています。設定変更できない古いエコキュートを使用している家庭は、早急に新式に切り替えることが大切です。